

もっと知りたい
ふるさと

修理工事完成

平成十八年度から二か年かけて行ってきた長野県宝「松田家住宅主屋」の修理工事が、この度完成いたしました。二月十三日の見学会には、二百名を超える市民のみなさんが、江戸時代の姿に修理された、一般の民家と異なった「神主さん」の家を見学されました。

千曲市では、県宝に指定された主屋ほか市指定文化財の付属建物を平成十六年十二月、所有者の松田孝弘様から寄贈を受けたのを機会に、平成十七年度から平成二十五年の九年間をかけて修理し、公開する「松田家資料保存整備事業」を行っています。

この事業は、江戸時代の後期、明治期の建物群、約二千坪の屋敷内に中世の居館跡をしのぼせる堀や土塁（土を土手状に高さ二メートルほど盛り上げた防



県宝「松田家住宅主屋」

御施設)、さらに一万数千点にのぼる古文書、書画、什器等の資史料の散逸や滅失を防ぎ、その保存と整備を行い、広く活用を図るものです。

整備にあたっては、八幡地区のまちづくりの拠点として、また千曲市の観光拠点となるよう整備を行う計画です。

県宝「松田家住宅主屋」

主屋は、平成十六年十一月二十二日付けで長野県宝に指定されました。

主屋の建築年代は不明ですが、建築部材の仕上げや建物の特徴から江戸時代後期（十八世紀代）の建築と推定されています。弘化四年（一八四七）の善光寺地震で傾き建て直したと伝えられていることから、一九世紀前期に現在のように改造されたものと考えられます。

建物の特徴として、間口十二間五尺、奥行四間の細長い木造平屋建、茅葺の建物で、間口中央から齋館に向かって凸字形に突き出した平面形となっています。

主屋の平面は、前後に五室が並ぶ形式で、土間が表から裏まで通る一般の民家とは異なった間取りとなっています。天井が低く、差鴨居や長押を用いない武家住宅のような趣があります。

南側の突

出部は書齋

のような造

りで、一画

にある湯殿

は、神事の

時に潔斎の

場に使われ

たところで、

神主の家と

しての特徴

が表われて

います。

主屋は、平面形式、内装等の各種に特徴ある姿がみられる神主の住宅で、県内屈指の屋敷構えを持つ住宅として、長野県の建築の歴史を知る上で貴重な民家建築です。（以上、指定調査より）

今後の整備事業

平成二十年度は、主屋に引続き「新座敷」と呼ばれている県知事などの貴賓者の接待に使われた建物の修理工事を計画しています。

整備事業の完成には、まだ期間を要しますが市教育委員会では、今後も見学会を開催していく予定です。

市教育委員会 矢島宏雄

